

現地にメンバー41人

AMDA活動報告

救える命があれば

いくらでも

□17□

菅波 茂



ジャワ島地震医療支援

二〇〇六年五月二十七日午前五時五十三分(日本時間同日午前七時五十三分)。インドネシアのジャワ島中部で地震が発生した。死者は約五千七百人、負傷者約三万六千人。発生時、AMDAインドネシア支部長のタンラ教授は、日本にいた。国際会議に講師として参加したインドネシアのユースフ・カッラ副大統領に随行していた。翌日から私と一緒に岡山の本部で、救援活動の陣頭指揮

を執った。被災地のジョクジャカルタに最も近いソロ(スラカルタ)市にあるインドネシア唯一の国立整形外科病院では、五百人近い重傷患者が手術を待っていた。五人の整形外科医と三人の麻酔科医

編成のインドネシア医療チームが、二十九日から一日約五十人を手術した。同時にジョクジャカルタにあるサルジト国立病院でも緊急手術と治療を行った。その後、プランバナン郡ペレン村での巡回診療も加わった。多くの支援者の方々にあらためて感謝したい。

印象的だったのは、バンクーバーにあるコロンプラ病院の病理学部長でAMDAカナダ支部長のウイリアム・グールド医師の対応だった。「航空運賃の半額自己負担で看護師一人を派遣したいが可能か」。「大歓迎。すぐ選プロジェクトへの参加

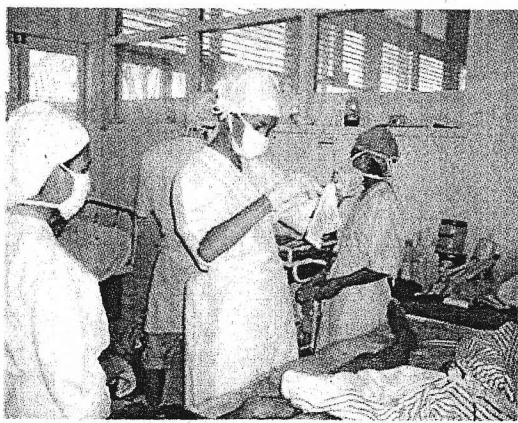
と応募した。「半額AMDAは治安の悪い

自己負担は彼のポケットマネーだと直感した。結局、彼は三人の看護師を派遣してくれた。

彼女たちはソロ市の国立整形外科病院でAMDAインドネシア支部医師たちと活動した。グールド医師からメールが届いた。「カナダ支部は小さな存在ではあるが、AMDAのメンバーであることをとても誇りに思っている」

一九五〇年生まれ、グールド医師とAMDAとの最初の出会いは、日本人医師とフランス人医師の三人組として、一九九四年のカンボジア難民帰還プロジェクトへの参加

迅速かつ的確 モットーに



インドネシアジャワ島中部地震緊急医療支援活動スハルソ国立整形外科病院で手術に従事するAMDAカナダ支部看護師(中央)2006年6月(AMDA提供)

マレーシア、カナダ、ネパール、フィリピン、カンボジアの七カ国から医師二十七人、看護師六十一人がAMDA多国籍医師団として救援活動を実施した。〇四年十二月二十六日に発生したスマトラ島沖地震・津波の被災者救援活動のために十カ国から編成されたAMDA多国籍医師団は、インドネシア、スリランカ、インドの三カ国に百人以上のスタッフを派遣した。

コンボンスプ州ブノム・スロイ郡立病院の再建プロジェクトを実施していた。首都ボンペンの安全な地域でのプロジェクトは、すでに欧米のNGOによって占められていた。ロンドン大学熱帯医学公衆衛生学修士課程を修了したばかりだった

彼らは、マリア対策と巡回診療を担当した。グールド医師は巡回診療中にボル・ポ特派隊に襲われたが、腕時計を取られただけで済んだ。もしも彼が殺されたり重傷を負っていたら、現在のAMDAは考えられない。その後、彼はAMDAカンボジア支部の育成に尽力。現在AMDA

五年十一月に発足したばかりのAMDAマレーシア支部が、今回の救援活動で大活躍をしたことだった。なぜなら、マレーシアで生まれた彼にとっ

て、友人たちと一緒に人道支援活動を行うことができたからである。インドネシア、日本、この連載は毎月第四日曜日に掲載します。